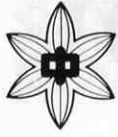


くまぎさ



「同窓会館」実現へ向けて 勇躍スタート

母校、開校七十周年の記念すべ
き年に、「同窓会館」建設の実現
へ向けて、大きく一歩を踏み出し
たことは、誠に喜ばしいことであ
り、組村同窓会長はじめ関係者の
方々に心から敬意を表したい。

これまで、会報の中で、「同窓
会館」建設について取り上げられ
てきたが、建設敷地の確保に始ま
り、建物の設計について、その決
定をみるまでには、かなりの曲折
を経ている。

同窓会館建設小委員会（久本甫
会長）での真剣な論議は、緊迫し
た空気に包まれることがしばしば
であったこと、中村力前校長が母
校の改築と結びつけて、細かな設
計図や模型を作成して、多くの話
題を提供してくださったこと……こ
のようにして、写真にみるような
「同窓会館」の模型となつて結実
したのである。

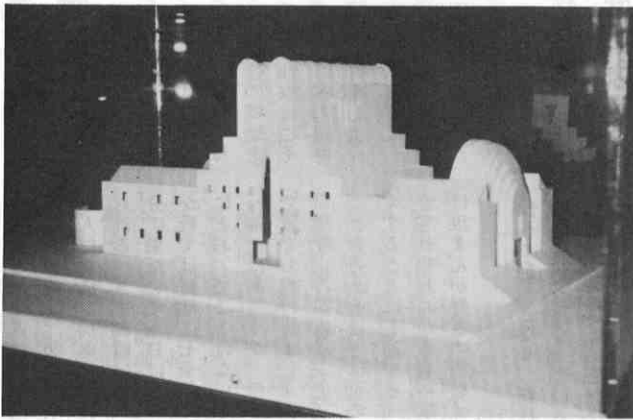
この斬新でユニークな設計は、
同窓生の設計家である毛網氏の力
作であるが、釧路ですすでに「郷
土博物館」の設計を手掛けており、

わが「同窓会館」において、その
真価を知ることになろう。
「同窓会館」建設のための具体
的な方略は、いよいよ、「同窓会
館建設実行委員会」（丹葉節郎会
長）にゆだね

式典の席上において、母校に対し
て、「同窓会館」の目録贈呈が、
組村同窓会長によってなされるこ
とになっている。
会館の内部構造については、ま

だ細かな点で検討の余地があるよ
うだが、願わくは、同窓生のオア
シスとしての役割を果たすよう、工
夫をしてほしいところである。予
定では「同窓会の資料室」を作る
ことになっているそうだが、母校
の歴史とともに歩んできた、わが
同窓会の歴史の証をしっかりと位置
づけたいものである。
一万数千名の同窓生の力を結集
して、一日も早く「同窓会館」の
建設を実現したいものである。（豊）

道新紙上で報
道されていた
ように、何と
いっても、大
変なのが、資
金の確保であ
る。今や、天
下にわが同窓
会の力量が問
われるわけで
同窓生諸氏の
絶大な支援が
必要である。
九月十七日
の母校創立七
十周年の記念



「同窓会館」外観模型



記念式典で贈られる目録

開校70周年を祝う

—かな校訓、誠・愛・勇の継承—



同窓会会長

組村 真平

私の湖陵在学は終戦を俵んでその後数年である。修学旅行どころか勤労作業に明け暮れ生活に追われていた当時であったから、実際には楽しい経験など少なかった筈であるが、年を経て、それは懐かしく楽しい思い出に変化し、時として郷愁をさえ感じさせる。

当時の「師恩を誦う五星霜」という校歌は今「三星霜」であり、応援歌の「湖陵に永し三十年」は



湖陵高校校長

安井 友博

大正三年に開校した本校は、本年をもって開校七十周年を迎えることになりました。

この間、国際情勢や社会情勢の目まぐるしい移り変わりや、戦後の学制改革など、大きな風が何度か襲ったわけですが、開校以来育まれて来た剛健な気風と、文武両道に全力を傾注するという生徒気質は、脈々と受け継がれてきているように感ぜられます。

六十周年記念式典の折に、本校

「七十年」であるけれども、それらを唱うと、つい青春時代に帰った気がして幸せな気分になる。母校とは、そういった私達の郷愁を掻き立てる存在で、それ故にこそ母校のためにと、つい財布の紐を緩め同窓会館建設に寄付をしようかなどということにもなる。

その母校が開校して七十年になるといふ。この間、戦争もあったし、火事で校舎が焼失もした。然

教頭として在職していた私が、今又七十周年記念式典に再び校長として列席出来る光栄をしみじみかみしめると共に、本校との出会いに因縁めいたものも感ぜられてなりません。

この二度にわたる在職で、特に強く感ぜられるのは、同窓諸先輩の母校に対する誇りと思慕の情であり、後輩に対する思いやりの情であります。こうした母校愛とも言える思いが、今回の同窓会館建

し、それにもめげず母校は間断なく社会有為な人材を輩出し続けた。学校の価値は、勿論、永さではなく人材育成に功ありや否やで決せられるべきで湖陵はその機能を充分に果たして今日に至った。時間が経てば自然に七十年にもなり別にどおつてことはないとの考えも一部にはあろうが、今は理屈抜きで皆でお祝いしましょう。

現今、世は不景気である。楽しいことを考えることは世の中を明るくすることにも通ずる。さらば憂を忘れ唱わんか青春の歌を！ともいふ。汲まんか寿ぎの酒を！

設への動きとなり、新校舎改築への取り組みとなっているのを考えるとき、まことに感謝にたえない次第であります。

道東の中心校として、一万六千余名の卒業生を送り出した本校に学ぶ生徒は、地域や父母の期待を一身に受け、さらに又先輩諸兄弟の暖かい励ましを受けて、まことに幸せであります。

この開校七十周年を契機として生徒ひとりひとりのためまざる日々の精進を期待するとともに、同窓諸先輩の御厚志に對しまして、厚くお礼申し上げます。

伝統ある釧中魂のもと ふるさと 道東の発展に全力をつくします。

衆議院議員 **北村 義和** (釧中26期)

●事務所 / 釧路市錦町5-1 ☎25-8005

母校(釧中・湖陵)の

— 脈々たるかな母校愛、滔々たる



PTA会長

伊藤 正司

湖陵高等学校が開校七十周年を迎えましたことを心からの喜びをもってお祝い申し上げます。

七十年といえは人間の生涯にたとえれば「古希」といわれる年であります。霊峰阿寒右手に仰ぎ、轟く大洋左手に御して鈴蘭かおる春採の岡、この岡こそ我々同窓生の青春のシンボルでもあり原点でもある湖陵が岡であります。以来七十星霜一万七千余の卒業生は大



後援会会長

山本 将

ここに本校開校七十周年記念日を迎えるにあたり、後援会を代表して心からお祝いを申し上げます。開校以来七十年、ますます発展する本校の姿を見て、よろこばしい限りであります。この事は、歴代校長先生はじめ諸先生方の御努力によることが大なるものがありますが、歴史と伝統を受け継ぎ、校訓「誠」「愛」「勇」のもとで、湖陵魂を発揮する生徒の努力も見のがすことは出来ません。加うる

きな人脈として社会の各方面に活躍を続けております。

同窓の人脈を結ぶ三つの輪、即ち先輩、後輩の輪、同期生、クラスメートの輪、そして学舎といふきづなに強く結ばれた師弟の輪、この三つの輪が、誠愛勇という湖陵精神に裏打ちされて心と心の結び目となっておればこそ力強い発展を遂げてきたものと確信致します。時は流れ社会は目まぐるしい

にPTAと同窓会と後援会が一体となつて学校運営に協力してきた事にもよると思ひます。この間本校を卒業された生徒もまことに多数となり、各地で各分野にわたつて御活躍の名士は数えきれないものであります。報を聞くにつれこれ又心強い限りであります。反面本校の泣きどころは、非近代的な校舎と施設の面にありますが、これ又PTA等が一体となつて努力中であります。その最中、この記

変転を続けております。然し我々は青春のひと時を或は五年或は三年、そのめぐみを謳つた思い出は常に新しく常に血を湧き立たすものであります。顔を合せば時を越え立場を越えて肩を組み手を打ち校歌に応援歌にそして昔語りに入れ込んでしまうのが同窓生、湖陵人の我々であります。

今、母校の七十年という節目を契機として問題の山積する教育界を見つめ後輩の夢の実現に、なさけゆかしき同胞として母校発展に力を結集することも湖陵人の面目であるとも信じます。我が学舎七十年万才、湖陵人脈万才、そんな喜びがこみあげてくる祝日です。

念すべき年に同窓会館の建設を決定された同窓会の御勇断に敬意を表すると共にその早期完成を期待するものであります。この事が校舎全面改築の引金となる事を併せて期待し、本校の釧路市における一流高校としての諸設備が名実共に完備することを切望し祈念するものであります。皆さま方の従前の本会に対する御理解と御協力を深謝し、今後共倍旧の御芳情をお願い申し上げます。最後に本校と同窓会の益々の発展と皆さまの御多幸と益々の御活躍を祈念申し上げます。御挨拶と致します。

北海道議會議員 **綿貫 健輔** (湖陵17期)

●事務所／釧路市末広町3-1(浅川ビル) ☎25-6296
●自宅／釧路市米町2-1-34 ☎42-3344

「同窓会館」建設実行委員会始動

— 母校愛の試金石？ 資金調達への協力 —

最近の釧中・湖陵同窓間における同窓会館建設に関する意識は急速に盛り上がりつつある。これは、われわれ同窓生の心に、永い間悲願にも似た形で潜在していた同窓会館待望論が同窓会館建設実行委員会の呼びかけに呼応する形でわき上がったものであると考えられる。今、永い間の悲願と書いたが、この源流は実に昭和二十二年七月二十三日、戦後最初に行なわれた「同窓会再建発起人会」にまでさかのぼるのである。

この会で、第一代同窓会長の丹葉節郎氏が「学校に同窓会の部屋というものがほしい。そこに同窓会の資料を保管し、会員の役に立たせたい。」と発言されている。

そして、昭和三十四年七月二十三日の「同窓会」創刊号には、第三代同窓会長の米内富久司氏が「同窓会館を作ろう」という一文を寄稿されているのである。以来、同窓会館建設の願いはある時は地表に、ある期間は伏流水となつて同窓生の心に受け継がれてきたのである。その間の曲折を経て、それが昭和五十四年八月の同窓会総



建設実行委員会結成—始動

会の席で組村現同窓会長から改めて具体的な呼びかけがなされ、昭和五十五年七月に「同窓会館建設小委員会」が組織され、委員長に久本 甫氏（湖陵七期）を選出し各方面へのはたらきかけが活発になされ、会館建設への青写真が着々とでき上がっていったのである。同館の設計、規模、建設費用およびその調達方法、着工および竣工時期等の詳しい内容については同窓会紙「くまざさ」の第六号、第七号に詳述されている。さらに今年の八月二十四日付けの釧路新

聞、同八月二十七日付けの北海道新聞にもその計画が詳しく報道され、同窓生ばかりでなく多くの市民の耳目を集めたのは周知のとおりである。北海道新聞はその中で規模や意義にふれながら「目標一億八千万円という釧路では珍しい大型募金で、しかも不況下での資金集めとなるが、果たして母校愛が不況を吹き飛ばすことが出来るかどうか、市民から深い関心を持たれている」と書いている。それに対し、同記事で、わが遠藤隆吉幹事長は「一万三千人の同窓生が一致協力すれば大丈夫。」と同窓の意気の高さを強調しているのである。その意気の高さは、これらの報道前の八月二十二日にパシフィックホテルで「同窓会館建設実行委員会総会」が開かれ、久本氏の経過報告、丹葉氏の決意表明、北村義和顧問代表による檄、安井湖陵校長の祝詞等によって建設実現へ向けての決意が不退転のものになっていったのと同窓生に対する揺るぎない信頼とによるものであった。

一般同窓生は各委員の労を多くして具体的な今後のスケジュールについては物心両面にわたり協力をしていきたいものである。（北）



福司

郷土の酒

敷島商会

釧路市住吉2-13-23
☎41-3302

釧路湖陵同窓会館建設実行委員会名簿

顧問	衆議院議員	北村義和
"	衆議院議員	池端清一
"	道議会議員	滝沢勉
"	道議会議員	綿貫健輔
"	釧路市長	鰐淵俊之
"	釧路市教育長	梅山源悦
"	同窓会元会長	米内富久司
"	"	古谷武一
"	"	坂下忠勝
"	"	中村隆隆
会長	"	丹葉節郎
副会長	後援会々々長	山本将
"	P T A 会長	伊藤正司
"	大栄グループ代表	小船井武次郎
"	釧路商工会議所会頭	渡邊源司
"	在京釧路会々々長	波岡政治
"	札幌くまざさ会々々長	上関敏夫
"	十勝湖陵会々々長	河崎弘
"	厚岸湖陵会々々長	金子養悦
"	釧路市役所湖陵会々々長	船給定雄
"	三ッ輪運輸湖陵会々々長	羽田行雄
"	太平洋湖陵会々々長	桂木忠仁
"	釧路市教職員湖陵会々々長	中川邦雄
"	十條製紙湖陵会々々長	北野昭夫
"	釧路弁護士会	野口一夫
"	釧路司法書士会	中村幸雄
"	釧路医師会	橋場亮二
理事	同窓会副会長	名倉滉
"	"	長内宏
"	"	徳田瑛子
"	"	神峯松夫
"	副幹事長	五十嵐松夫
"	"	中川喜久雄
"	"	沢田征矢
"	"	高島正和
"	P T A 副会長	小畑龍正
"	"	佐々保正男
"	"	妹尾継男
"	"	松原久幸
"	後援会副会長	割方祥一
"	"	工藤寿男
"	"	村上史郎
"	"	坂上洋治
"	在京釧路会幹事長	佐川和美
"	札幌くまざさ会幹事長	青木武夫
"	十勝湖陵会幹事長	男沢浩
"	厚岸湖陵会幹事長	太刀野康夫
"	釧路市職員湖陵会	波多野実

理事	釧中7期	磯部正巳	
"	9	鈴木徳一	
"	10	鬼武信弘	
"	11	大久保博久	伊藤忠一
"	13	山本久	小甲幸一
"	14	小川一兵衛	
"	15	佐久間令次	渡辺忠
"	"	岩堀氏隆	
"	16	山崎武一	中江孝司
"	17	難波良武	中野村大六
"	18	軽部晴夫	菊地常男
"	19	高畠耕造	大林富一
"	20	姥沢均	沼崎吉麒
"	"	林田久男	
"	21	浪岡義雄	
"	22	飯利茂	平川剛喜
"	23	水口正司	
"	24	佐藤達三	
"	25	納谷喜久治	日向正雄
"	26	両谷要	
"	27	滝永滋男	
"	28	八幡弥平	金野幸平
"	29	中村平衛	寺西章夫
"	30	松島良治	成田竹治
"	湖陵1期	高間英二	多胡省三
"	2	木内周治	花井哲雄
"	3	堀越徳治	柴田富也
"	4	滝沢泰男	張江梯治
"	5	伊藤文雄	荒井有玄
"	6	本間秀一	今泉克朗
"	7	浅川了福	
"	8	山本悟	武藤忠
"	9	柳政司	永田淳一
"	10	関口義雄	石井東洋彦
"	11	浜木要	中谷藤和
"	12	片山徳郎	
"	13	吹越明徳	
"	14	渡部次郎	
"	15	門喜久雄	
"	16	鈴木豊治	大道光肇
"	17	中沢隆	
"	18	吉井祥朔	
"	19	名和重保	島本幸一
"	20	高橋義雄	高島優
"	21	中川博夫	
"	22	種市司	
"	23	楡金達朗	
"	24	佐々木章	遠藤敏

以上の実行委員の方々は、8月22日の段階で決定をみたものである。職域、その他のことで、今後、若干の補充があることを含んでいただきたい。



うまさ365日 サッポロビール



釧中32期 奥田 達也

「釧中スト」

ストの発端は「教師の酔った上での武術自慢から」と余り芳しくない。

敵首に反対

資金流用つく 中川先輩

立てこもる上級生

宿直室で菊池野球部長が水筒の御神酒を飲んでいた。そこへ牛丸と愛川、横山の三教師が加わった。この六畳間は吞兵衛教師の格好の座敷である。酒盛りの話題が剣技におよんだ。「よし、それならやってみせるか」と一人が押し入れの真剣を抜き出し、慌てた一人がそれを止め、他の一人が相手を窓から逃がしたのだが、固い石にあたって牛丸は足をくじいてしまった。辻徳夫柔道師範の整骨手当てを受けてから善後策を講じる。酒の上でのこととお互いに感情のわだかまりはない。怪我をどう繕うかで、菊池に代って牛丸が宿直、夜十一時の巡回中に割りぐり石に足をとられてくじいた、とする。公務上の怪我として道庁へも届け出をした。だが市の人口五万の当時、真相はすぐに広まった。時あたかも道庁長官に佐上信一が任命され、新進気鋭の西村学務課長が中学教育の刷新に本腰を入れた折である。上級進学率悪く、

内地の子備校に在学する者三千人をかぞえ、一カ月一人の所要学費五十円として年額百八十万円もの父兄負担は道経済上みのがせない緊急事項であった。昭和七年五・一五事件の世相騒然ななかの五月十六日、渡辺繁吉に代って佐藤修一が釧中五代目校長として赴任した。茨城県鉦田中学校長からの転任で五十三歳。子供はなく「直情径行の人」赴任早々に大根田教頭、菊池正人舎監長らを集め教員異動について協議する。八月の夏休み。さきの四教師の首切りは断行された。小使によって自宅から校長室に呼び出される。厳しく皮肉をいう校長。それに答えていろいろ弁解する被告教師ら。だが、校長は無理解に退職願いを書かせた。それを隣りの日直室で聞く中島弘教諭は、「教育で一番大切な釧中を一貫して流れたヒューマニズムの灯は消えた」と感ずる。夏休みも終りに近い八月十九日澄宮(三笠宮)殿下を出迎えに豪雨の駅頭へ招集された生徒たちは初めて四教師が校長に敵首されたことを知る。丁度、市会議員として出迎えにきていた一回生中川久平先輩に生

徒らは報告したが、中川は、「軽拳もう動はするな」と生徒たちをいませる。二学期の始業式にも、休み中に四教師の離任があったことの発表だけであり、九月はじめの月曜朝礼で、突然に図書館の新築につき「工費はたったの四千七十五円也なんと安いものではありませんか」という。なんのことやらわからない生徒には、校長の変にはしゃいだ、おもねるような語調だけが奇妙に感じられたのであった。だが、ここに三十四歳の生きのいい中川が登場する。翌週の月曜朝礼に乗りこんできた中川は演壇に上るや全教員、生徒の前で、校長を指差し、「この校長は先生、生徒になんの相談もなく、校友会基金を利用した。図書館の建築とはいえ、校友会の金を、会員に一度もはかりもしないで流用するとはいったい何事であるか」と。たまたま釧路信金で「釧中図書館新築の資金繰りについて」耳にした中川のこの爆弾演説に一同は騒然となった。中川にいましめられ、四教師の首切りに腹のいえない生徒にとつて、ようやく爆発の糸口をここに見出したのである。

マリッジ・ウイスキー MILD NIKKA マイルドニッカ 9月21日 デビュー ニッカウヰスキー

愛情教師の 進学率向上を 佐藤校長 弁天さん社務所に

つたのは、病気で留年した文芸部の五十嵐重司である。

『排撃せよ海坊主ノ精算せよ釧中のインチキ』と大書したビラを、屋内体操場の正面中央にでかかどはり出した。が張り終わって出たところ藤田教諭に見つかり、叱られる。

四教師の退職について有能な若手教師が着任、職員室は教員異動に賛成、反対と分かれた。いずれも生徒を思い、自分の考えを正しいと信じてのことである。

最上級生代表は中川宅へ相談に行き、中川は六回生西村勝雄や卒業生らと協議するも、正義感にもえる彼らは「誠首教員の復帰」を標ぼうし、校長のやり方は血も涙もない、との結論になった。

幾度となく校長に会ったが五十嵐リーダーは気負い立っており、行きつく所まで行くしかない。彼と違って謹厳実直な父親もこの時ばかりは賛同し、父親の先頭に立った。当時の釧中の父親は冒險心に富み開拓精神に培われた人々である。子の教育をまかせた先生への愛情も強ければ校長への憎悪もきつい。中川への信頼も厚く、かつて父親も生徒も彼に従う。誠首教員の復帰を要請する同窓生、父親代表ら。だが校長は撤回しない。公会堂（現公民館）に集まった

父親はストライキしか校長への対抗方法はないと正式に決定した。

スト遂に行われる。昭和七年九月二十日、同盟休校はじまる。

ストの本部は巖島神社の社務所。菊池誠首教師が宮司をする釧中運動部の集会所でもあった。

「大いに頑張り」と米二十俵が何処からか贈られてくる。立籠ったのは四、五年生で晴天には野外にたむろし、他の日は社務所内で自習勉強をした。上級生は各人の意志で行動することを許されていた。

下級生は父親、先輩の指示により、校門や松林にいる彼らに、「同盟休校だから帰れ」といわれ喜んで帰宅した下級生が多い。

ストの或る日、中川は西村を誘って釧中の宿直室を訪れる。「あんな腐敗した校長の所に神聖な伝統ある校旗を預けておけない我々のところに持ってこよう」

「久平さん、持ってくるということは言葉は美しいが、盗むことになる。まあ我慢しようや」と西村。

しかし、折角ここまでできたのだから宿直室の先生を訪ねて、お茶でもご馳走になってゆこう」

だが驚いたのは宿直の樺沢先生なにしろ剣道の強豪中川と激突も辞せずのバリバリの将校西村が予告もなしに現われたのである。樺沢先生は真青になって正座し、ガ

タカタと震え出す。この二人では何をしだすかわからない。

だが中川は破顔一笑していう。「あすの宿直は誰かね」と。

学校長では話にならないとみた中川は父親代表と共に出礼し、佐上長官とあい白紙還元を懇請する。だが教権の維持上、一旦発令したものは戻せない、との回答。更にねばって、一応

「徐々にその方向に戻す」との確約を得、帰釧して父親、同窓生、生徒らにその報告で交渉権を預かる。かくて校長にあり。岡田道義や日刊四新聞社長もなかに入る。

「不徳の致す処として……」に始まる辞表を全教師に校長は書かせて預りとする。

学校とスト団の板挟みにあつていた五年生担任の三教師らは、生徒に犠牲者の出ないようにと懸命に奔走。

生徒らに欠席理由書を提出させた。とくに五年生には、のちに軍隊へ入営後の難を考え「スト参加者」の汚名を着せないため、医者

の診断書を添えて届け出させた。鉄道工機部ちかくの者は隣の佐々木医院で脚気の病名を書いてもらったぐらいである。

かくて、喧嘩両成敗の結末で釧中ストは終結をみたのであった。

いつものボトル。

サントリーリザーブ

当番期紹介

釧中三十二期(湖陵一期)

意気旺盛ノ若きオ ジンの修学旅行

同期生が卒業後初めて会合したのは、もう十年も前のことであり、それは四十二才の厄払いの時であった。旅テル市川に約四十名が集い厄災解除、家内安全を祈念した。以後毎年、卒業期の数「釧中三十二期」にちなみ三月二日に近い土曜日を同期会の日と定め会報も「三二だより」とし発行している。(我々は旧制四年で卒業した者、同じく五年で卒業した者―これが釧中三十二期―、新制高校切替えて卒業した者―釧高一期―湖陵一期とする―の三期にわたる卒業期がある)それは朴訥だが気配りのきいた男達の近況を知る広場の役割を果たす。五年前、卒業三十年を機に、国鉄が廃止寸前のお座敷列車を利用し札幌方面へ学生時代果せなかつた修学旅行を実施、別名「酒学旅行」と新聞や月刊ゲンで話題になった。約七十名の旅行であった。そして今年五月、卒業三十五年記念とし

ほとんどが、卒業時のままの状態でありませぬ。

タメタ駄目だ！今年も釧中・湖陵高開校七十周年の記念も含まれているのだぞ、幹事の任務も大事なれど、十一期の大結果を計るのが先決だ！

各クラスの代表が世話人となり急ぎ八月二十二日に第一回の同期会を開催した。懐しい顔が集り、昔の話しや、仲間の消息に、現在は続く。校歌、応援歌が出て、一足先に同窓会の予行練習となった。総会の相談はこのつぎだ！結論のないまま、絶大な協力をするからと幹事に一任される。

厄年も終り、社会の中堅としてヤル気満々の時に幹事役を仰せつかる。これを転機として十一期会は結果出来たし、ニコニコ笑って任務を全う致します。

ともあれ、七十周年の記念する日に、素晴らしい同窓会総会にすべく頑張っております。(濱木義雄)

湖陵十一期

「為せば成る」の感 じで幹事になって

オイ、今年の同窓会総会の当番幹事は湖陵十一期だつて、十一期で誰れ達だ。昭和十五年生れの辰年の連中だそうさ。アレ！それなら俺達でないか。何とも頼りなく申訳ありません。

卒業して二十五年目に当ります。その間に小さな交友の集まりはありましたが、一度も同期の集まりはなく、同窓会の名簿を見ても、

いと思ひます。

我々の第一の任務は三百枚の会券を捌かねばならないことです。当然のように我々も同期会は結成しておらず、同期のほとんどが東京方面に就職していることから市役所に勤務している21期の連中

が中心となり現在会券を捌いでいる最中ですが、なかなか思うようには売れず物を売ることの難しさを改めて痛感したところです。さて早いもので、学舎を去ってから既に14年が過ぎ、今では小学生のお子さんを持っている同期生もそう珍しくありませんが、こうしてベンを持っていて、在校生の歌う「蛍の光」に送られて湖陵を後にしたことや、学生時代の色々な出来事が、まるで昨日のように鮮明に思い出されます。

一年生の秋にバス遠足で屈斜路湖へ行った時のことですが、5・6人でパンツ一枚になって泳ぎ、仕舞いには素裸で泳いでいたところ、ボートに乗った女子生徒が近づいて来て慌てて逃げたこと、学力試験は教師の普段の授業の効果測定のための試験であり、我々がテスト代を支払うことは納得できないなど理由をつけ支払を拒否して校長室に呼ばれ説得されたこと等が、今は唯懐しく思われます。

湖陵二十一期

思いつくまゝに

今回、当番期の紹介をテーマに原稿を依頼されたわけですが、特にないので思いつくまゝに書きた

(宮下輝男)

いつもいいこと、アサヒから。

わがふるさと北海道。
育ててくれてありがとう。

爽やかな空はいつもはらかに唄っている。
爽やかな空はいつもやさしくさわってくれる。



ナチュラルなつくりの生ビール
LIVE BEER
アサヒ生ビール

北海道アサヒビール株式会社 札幌市白石区南郷通4丁目南

学園たよりの

同窓生のみなさん、いかがお過ごしですか。

みなさんの巣立ったわが母校は、昨年をもって開校七十年に達しました。

この間、敗戦後の学制改革で、「釧中」が「湖陵」に名を変え、「六葉の熊笹」が「三葉の熊笹」に形を変え、「旧校舍」が焼失して、「新校舍」に生まれ変わりました。しかし、「神秘を削る丈夫」と歌う校歌は、「誠・愛・勇」の校訓とともに、語り、歌い継がれてきました。

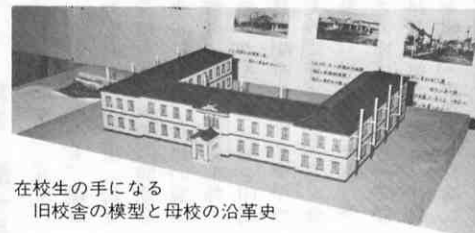
この七十年の歴史を顧み、この九月、一つの節目として、記念式典を企画しています。すでに湖陵ヶ丘の礎となられた幾百の方々、鎮魂の念を献げつつ、歴史を築いてきた幾多の貴重な遺産を今一度掘り起こしたいと思えます。先輩諸氏には古き懐しき青春の日々の追憶の日となり、在校生諸君には、伝統の持つ重みと多くの教訓を噛みしめ、明日への飛躍のステップの日とすることを期待しています。

現在、本校教職員は、「七十年記念協賛会」のご援助をいただきつつ、「記念式典」、「記念誌

(沿革史)の発行、五十周年時の収集資料にさらに新しい資料を加えた「資料展」、「記念品(同窓会の希望もあり、写真のような手拭)」、同窓会館建設の動きに呼応した「同窓会館模型の展示」、「旧校舍の模型展」などの準備をすすめています。これには、生徒会や図書部の生徒たちも参画し、全面的な協力



開校70周年記念で配られる手ぬぐい



在校生の手になる旧校舍の模型と母校の沿革史

場、このうち剣道は男子団体で、連続二十九回全道大会出場、弓道は創部二十年目で初の女子個人六位入賞(佐藤奈央子、三年)を果たし、全国大会には陸上で菊地章泰(二年)がやり投げで出場しました。

を続けてくれています。さて、今年度も、後輩の在校生諸君は、校内外とも意欲的な活躍を続けています。その成果の一端をご紹介します。

まず、運動系のクラブです。高体連発道大会には、柔道、剣道、弓道、硬式テニス、軟式テニス、陸上、バスケットの各部が出

番組制作部門で全道二位、全国大会には橋下清志(一年)が全道高校将棋選手権大会で見事に優勝して、東京大会に出場しています。

全国大会への出場数はやや寂しい感がありますが、今後団体予選、選手権(新人戦)、美術、書道、演劇、器楽、合唱など高文連大会などが控えており、好結果が期待

できます。校内では、第三十三回の文化祭(「湖陵祭」)が、九月三日(五日)と間近です。もちろん、三年生は就職・進学と、これから正念場を迎えるわけですが、その三年生を含め、千三百名余の生徒たちは、遅れがちな作業をとり戻そうと必死です。青春の情景が、そこにくりひろげられています。特に行灯行列は、男女共学になった頃から始まり、すでに伝統とさえなってきたものだけに、生徒たちは精魂を傾けて、その作成にとり組んでいます。交通事情の厳しくなった昨今ですが、今年も秋風のそよぎはじめる頃、釧路の一つの風物詩として、市民の目を楽しませることでしょう。

ともあれ、昔と比べて生徒気質が随分と変ってきたと言われながらも、若者たちは、学習に、部活動に、その他の諸行事にと、彼等なりに、喜び、苦しみ、そして友情を深めつつ、自らの青春を力一杯生かしています。



同窓生のみなさん、どうぞご安心を。
(湖陵四期 和田信幸)

品質で選ばれた清酒 **丹頂 千歳鶴**

清酒千歳鶴・寿みそ・サッポロサイダー・余市ワイン製造元

日本清酒株式会社

同期会だより

同期会の会合は、同窓会の総会時に合わせて持たれることが多いが、当番期の打合せを兼ねて開かれる場合もある。これまで、会報の中に紹介されてきたが、今回は母校開校七十周年を記念して、本年度実施した「同期会」の活動をメモしてみることにする。なお、事務局が知り得た範囲で載せるわけ、「同期会」を開いているのに紹介がないではないか。という指摘を受けそうであるが、次号以降順次掲載していくつもりなのでおゆるし願うことにする。

同期会だより

平である——なかなかの含蓄のあることばだと思ふ。卒業五十年も近づいている。わが湖陵の大先輩の集いに脱帽したい。

同期会だより

から仲間が集まるなど、その結束力は抜群である。来年は同期会につめえりとセーラー服で集まることになっている。そうで、会報で、各々の若返りの姿をこ披露したいものである。

同期会の会合は、同窓会の総会時に合わせて持たれることが多いが、当番期の打合せを兼ねて開かれる場合もある。これまで、会報の中に紹介されてきたが、今回は母校開校七十周年を記念して、本年度実施した「同期会」の活動をメモしてみることにする。なお、事務局が知り得た範囲で載せるわけ、「同期会」を開いているのに紹介がないではないか。という指摘を受けそうであるが、次号以降順次掲載していくつもりなのでおゆるし願うことにする。

同期会だより

八月十六日(味の石田) 恩師の三原先生を迎え、十七名集う。札幌から牧野駿一氏、東京からは、佐藤彦弥氏が駆けつける。席上、山辺会長がえらび、書家の角田麗石氏がしたためた色紙が配られた。「魚似魚行水自清」——魚・魚に似て行くが如く、老人は老人らしく「今」という時点の一期一会を大切に、毎日を生きていくならば水自ら清くて、家内和合、天下泰

同期会だより

同期会だより

八月十四日(八巻八宝園) 四十名を越える同期生が集う。恩師、男沢先生、浪岡先生に出席をいただき、同窓会総会への参加体制や会館建設資金の寄付が話題になった。昨年は定山溪に各地から百名

同期会だより

同期会の会合は、同窓会の総会時に合わせて持たれることが多いが、当番期の打合せを兼ねて開かれる場合もある。これまで、会報の中に紹介されてきたが、今回は母校開校七十周年を記念して、本年度実施した「同期会」の活動をメモしてみることにする。なお、事務局が知り得た範囲で載せるわけ、「同期会」を開いているのに紹介がないではないか。という指摘を受けそうであるが、次号以降順次掲載していくつもりなのでおゆるし願うことにする。

同期会だより

同期会だより

同期会だより



同期会だより

同期会の会合は、同窓会の総会時に合わせて持たれることが多いが、当番期の打合せを兼ねて開かれる場合もある。これまで、会報の中に紹介されてきたが、今回は母校開校七十周年を記念して、本年度実施した「同期会」の活動をメモしてみることにする。なお、事務局が知り得た範囲で載せるわけ、「同期会」を開いているのに紹介がないではないか。という指摘を受けそうであるが、次号以降順次掲載していくつもりなのでおゆるし願うことにする。

Yes Coke Yes

北海道 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
HOKKAIDO COCA COLA BOTTLING CO. LTD コカ・コーラ指定会社

Coca Cola : Coke. コカ・コーラとコークは The Coca Cola Company の登録商標です。





師の影を踏まず

そして離れず

釧中二十一期 浪岡義雄

ストライキの波も静まった昭和八年に釧中に入學。軍国的色彩の濃度を深めた時代。国防色の制服に巻脚絆の登校姿に急変していった年。先生方も同じで加えて国防色軍帽着用を余儀なくされ、集会時には正面に校長・配属将校の両立型の今では想像もつかないものであった。異性との交際からは隔離、質実剛健・心身練成・規律生活と学力向上に追い込まれる一見灰色の学生時代。視角の狭い詰め込み型の学生生活と感じていたのは私だけではないと思う。然し四年間慈父のような誠の精神教育に徹した高橋類治先生に担任していただき、時折の休日に級友と訪ね師弟愛と家庭団欒の中に溶けこみ人間性の豊かさに触れることができた。又スポーツの好きだった私は玉井謙一先生のお宅を夜分によく訪ね先生の弘前のご学生時代の話を、当時流行の健康ランプの下でお聞きし、兄のような温情さを感じた。その頃から体育教師の芽生えがあったのかもしれない。この頃、先生の指導で湖陵アイスホッケー部が誕生したのである。

又当時の先生方は夫々個性豊かな教師でその個性とユーモアに富んだ親しみ深い講義指導の中から、学力向上・体力充実そして基本的人間形成がなされたものと考えられ、当時の先生方の優秀さに心から感服の念を禁じ得ず、反面、教師としての自分の未熟さには常に汗顔の至りである。このように担任を中心に恩師の方々のご指導の中から自然に校訓の誠・愛・勇の精神が培われたことに深い感謝の念と共に、尊敬と親愛の情の根深さを痛感する。誠・愛・勇・質実剛健・忍耐の指導の中に釧中魂の一端を強く感ずる。至誠・友愛・感謝が私の信条であり又現在教師としての指導理念でもあり、私生活にも一貫したいと念じている。

湖陵七十周年の年に静かに振り返ってみると、あのような世代的灰色の釧中時代に立派な恩師、良き同期生に恵まれて、自己能力の最大以上に頑張られたこと、そして、現職を考え併せたときに、わが青春に悔なしと感謝の意を表したい。

わが青春は…



あとからほのぼの

思うわが青春時代

湖陵八期 堀満子

徳島の池田高校が、史上初の夏、春、夏の連続V3なるか否かで全国の高校野球ファンを熱狂させていたお盆の十六日、我等湖陵八期会が、浪岡先生の御臨席、下天摩さんの司会のもと、栄町会館で開催された。数年前、8なる数のつく同期生が同窓会の当番のためお手伝いという事で、卒業以来初めて、集ってからの第三回目の同期会である。やはり懐かしい顔、顔。今年は、在京八期会も我等のエースピッチャーであった「ワンチャン」こと渡辺さんの音頭のもと開催されたこのことで、その時の写真が回覧された。そこにも懐かしい顔が、そして想いが走る。

私達が入学したのは、丁度三十年前の二十八年だった。あの年あと何日かで入試だと頑張っていた私達を驚かしたのは、湖陵高校の火災であった。ああ私の行く学校が焼けてしまう。といたたまれない気持ちで半鐘の音を聴いたのを覚えている。入学式は公民館であった。授業は、一年生と三年生が

常に業界をリードする

ポスター・パンフレット・ダイレクトメール・カタログ・カレンダー・事務用伝票・印刷のことなら何でもお気軽にご相談下さい。



米内印刷株式会社

本社工場 / 釧路市堀川町5 ☎(代)23-0471

社会人一年生



遠くとも、おのれの道をおのれの足で

太平洋炭礦労働課勤務

佐藤 公勇(湖陵三十期)

今春、太平洋炭礦に入社し三ヶ月の研修を終え、七月より事務職として労務関係の職場に配慮されており。多くの作業員に入り混つての職場で、単なる事務とは若干性格が異なっているように思われます。保守と規律を正しく守り、汗と油の滲んだ作業服を身につけ、顔を炭塵や埃で真黒にして黙々と仕事に向かう人達を見るにつけ、苛酷な労働に耐え生活を守っている現実には接し身の引き締まる思いがします。

未だ労生気分が抜けきらず電話をかけると、隣の席や坑内に通じさせてしまうような失敗の連続であります。私達の世代というものは奇妙にも、社会の事象に直接左右されることなく成長してきたものだと思ふことがあります。60年安保の前後に誕生し、高度経済成長時代の中で少年時代を過ごし、石油ショックではまだ責任の無い年代で、学生運動にも、校内暴力からも見事に(?)外れてここまで来ています。激しい現体験を得なかつたことから、物分かりが良

く妥協的で問題意識を持ち難く受身な体質を形成していったのではないのでしょうか。これの典型である私にとって社会に出ることは、前述の殻を突き破る良い機会だと思われ。研修期間中に「君達はず、役に立てるように考えなさい。」と教えられました。誰かの何かの為にどう行動すれば良いかを考えることで、初めて「自己を自覚」することができるようになりました。

社会人としての自覚を持つことは容易に可能とは思われないので身近なものから次のように心がけています。まず健康に留意し、大きな声で挨拶し、早く人を覚え自分を知ってもらい、どんな仕事も心がけ次第で面白くなるものと信じ「嫌だ」と絶対に言わないこと。炭礦には湖陵高校の同窓生が約60名勤務しております。これら諸先輩の指導の下、早く一人前の社会人として自立できるように頑張っていきたいと思っております。同窓生の絆をより強く深めることも努力したいと思っております。

石井久先生(釧中二十五期) 道教育大学長に就任



石井久道 大釧路分校教授が、この度の学長選挙により、道教育大の学長に就任した。

九月一日、釧路を離れて、札幌の大学本部に移り、道内五分校の最高責任者として、腕を振られる。釧路出身の学長は初めてということ、わが同窓会の先輩のご栄進を心から祝いたい。

トピックス

これから、ひとまず四年間、職責を負われるが、先輩のご活躍に心から支援をおくりたいものである。

「くまがわ」

母校開校七十周年を記念して、銘酒「くまがわ」が、敷島商會から売り出される。会報の題字をそのま、縦書きにした形で、写真のようになかなかすばらしいラベルである。今回の当番期幹事のアイデアによって実現したわけで、九月十七日の同窓会総会後の懇親会の席で披露され、販売されることになっている。「くまがわ」のうまさ味に酔い、応援

歌をうたって懇親会を盛り上げたものである。「くまがわ」は五百円で九百円で販売する予定。記念に是非一本いかがでしょうか。



総会にむけて「当番期合同打合せ会」を開く

九月五日に、本年度の同窓会総会と懇親会の準備と運営をする当番期の幹事会が開かれた。湖陵一期、十一期、二十一期の面々である。母校開校七十周年の記念すべき年であるから、それにふさわしい催し



当番期幹事の打合せ会

にするには、どんな工夫があるかということ、長時間にわたって話し合われていた。一期と二十一

期では親子のちがいくらいの開きがあつて、一堂にあつて、さすが先輩の貫録と感心させられた。案外、こんな機会に同窓の絆が強められることになると思つた。

あとがき

▼今回は、母校開校七十周年を記念して、会報は四ページ増で全体が十二ページ編集になった。それでも紙面不足で、記事の選択に苦勞をした。

▼母校に原稿のことで出かけたなら、「湖陵祭」が華々しく催されてい。今年は、図書館で母校の七十年沿革史が展示されていて中には貴重な写真もあり、同窓の方々に是非見てもらいたいと思つた。

▼シリーズ「わが青春に悔あり」は、いつの間にか「悔なし」になつたりで、混乱してきた。それがあつてもなくても、なつかしいことには違いないので、本号からタイトルを「わが青春は……」として掲げることにした。

▼「社会人一年生」は、もう一人(今春卒業で三十六期生)に依頼したが、約束不履行であつたの悪い思いをした。「安物買いの銭失ない」にこじつけて、「安うけあいの信用なくし」とでも言おうか。相手のあることだけに注意肝要(豊)